

私は以前、世界を旅してきた人の講演会で学校へ通えない子どもが大勢いることを知った。私は自分の周りで小学校へ通っていない人を一人も知らない。その人の話は衝撃的だった。なぜこんなに差があるのだろうか。

日本は義務教育だ。私達は「義務」として学校に通っているのだらうかと思ひ、義務教育について調べてみた。するとそれは、子どもが学校に「通う義務」ではなく、親が子どもに「教育を受けさせる義務」だった。そしてそこには、たくさんの税が使われていることを知った。

日本の学校教育では小学校から高校を卒業するまでに一千万円以上の税金が使われている。中学校では一人につき月八万五千円の税金が使われている。大切な税金に支えられて勉強できていると知り驚いた。同時に多額の税金を使っていることに責任の重さを感じた。最近の私は「授業めんどくさいなあ」「勉強嫌やなあ」が口癖だった。しかし、私の学

校生活が税で支えられているのを知った事をきっかけに、その考えは大きく変わった。学校へ通っていることも、教科書を持っていることも、鉛筆で字が書けることも、すべて当たり前ではなかったのだ。そう思うと感謝の気持ちでいっぱいになった。税が私達の未来を支えてくれているのだ。

もし、税金が義務教育に使われていなければ、日本でも学校へ通えない子どもが増えるだろう。結果的にそれは、社会に貢献できる労働力が減ることを意味する。さらにそれは、税収が減ることになるのだ。そうなると、負の連鎖が容易に想像でき、おそろしくなった。未来の日本を支えていくのは子ども達だ。今、世界で問題になっている貧困や差別の原因の一つは知識の無さにあると思う。それらを解決するためにも教育は大切なことだ。日本の中だけでなく、そのような国際的な問題を解決するために活躍する人材を育てること

は、先進国である日本のすべき事であると

私は考える。そのためにも教育に税を使うのは有益だ。少子化で子どもが少なくなっているが、私達を取り巻く問題や環境は目まぐるしく変化している。それに対応できる人間を育てていくため、多様な教育ができるよう、予算を充実させることに賛成だ。

私は義務教育について調べて、今の状況に感謝できるようになった。そしてもっと頑張らなければという思いが強くなった。以前の私と同様に、「今」のありがたみを知らない同年代の人達もたくさんいるだらう。しかし現状を知れば意識が変わる人達も少なからずいるはずだ。だからこそ、このことをたくさんの人に知って欲しい。そして私は、この感謝の気持ちを行動に変えて、未来の日本に役立つ女性になりたい。